

言いたいこと 今後も言う

写真は朝日新聞 1 月 9 日朝刊「沖縄」を考える 土砂投入。音楽家の坂本龍一さんが標題について語る。心にせまる言葉も多いので、書き写して紹介したい。

沖縄との出会いは高校生のころ。民謡にひかれました。インドネシアやアフリカの音楽に興味をもち、大学で民族音楽も学ぶのですが、その中でも沖縄は、一番近いところにあるけれど、日本とは異なる独自の文化圏があつて面白いなと思つたんです。

東日本大震災の被災地を訪ねてきましたが、その中で、原発と米軍基地は別の問題ではないと考えるようにもなりました。そんなに原発や基地が必要だというなら、東京に造ってはどうでしょう。それでも国家は田舎のほうに押しつけようとする。「臭いものはとおくに」という発想が根底にあると思うのです。それに対して、自然を守りたいとか、自分の土地や生活を守りたいという人には抵抗する権利があります。しかし国家はいつの時代もお金と暴力でそれを抑圧してきました。まさに今、沖縄で行われていることです。

土砂投入が始まって、SNS では停止を求める署名が広がりました。タレントのローラさんが署名を呼びかけていましたが、偉いですよね。日本では「袋だたき」に遭うのが怖くて口をつぐむ人も多い。ただ、ネット上の一部の人間の暴走をまるで社会の空気かのように感じる必要もないし、テレビ番組がその後押しをするこのもばかばかしい。僕は気にしません。

2015 年、30 年来の付き合いがある沖縄の歌手、古謝美佐子さんたち 4 人組「うないぐみ」と沖縄の人々の思いや島々の美しさを歌う曲を作りましたが、その収益を反対運動を支援する「辺野古基金」に寄付しています。

米国では、国民の半分近くはトランプ大統領支持ですから、パッシングは日本の比ではない。それでも芸能人やスポーツ選手が政治的発言をすることが当たり前です。立場を表明しない人はかえって愚かだと相手にされません。

人気俳優のジョージ・クルーニーさんは、ワシントンで人権問題の抗議活動中、警察官の前でスーダン大使館の敷地に平然と入り、逮捕されました。アーティストは、発言や行動に影響力があり、「炭鉱のカナリア」のような存在です。彼はここぞという場面でその影響力を使いました。肝が据わっていて、本当に感心しました。

世界ではいま、「声がデカイ人の意向が通る」という政治が横行しています。真実を追求しようとするメディアには「ウソつき」と繰り返すなど、一方的な対応が目立ちま



す。反対する者ととともに議論しようとしなない日本政府の姿勢は、トランプ大統領のマネをしているでしょう。タガが外れていますよね。

そのことに多くの国民が意識を向けていないことが一番大きな問題です。メディアも懐柔されて言いたいことを言えなくなるかもしれません。僕はリスクは背負って立場を明らかにし、これからも言いたいことは言わせてもらいます。

(2019年1月14日)